

建 築 家

通 信

2015.1.20

vol.104



公益社団法人日本建築家協会 関東甲信越支部 長野地域会
JIA長野県クラブ

<http://www4.ocn.ne.jp/~jia-naga/>

E-mail jia-naga@jeans.ocn.ne.jp

窓

柳澤 孝彦



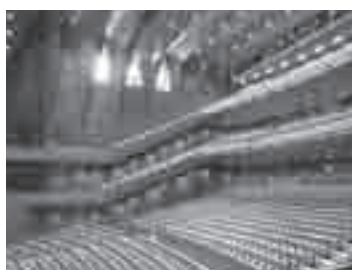
京都・詩仙堂



開運堂 松風庵



上田市交流文化芸術センター
上田市立美術館(サントミュージゼ) 外観



上田市交流文化芸術センター
上田市立美術館(サントミュージゼ)
大ホール内部ハイサイドライト

窓は、人々の内なる生活の場と外界を交流させる建築にとって極めて大切な基本的な構成要素だ。建築の眼とでもいうべきだろうか。窓という文字は心を通わせるとも読める程に人の心と森羅万象を結ぶ重要な構えである。

日本の伝統的な窓は、壁にうがたれた窓もあるがしかし、大きく外界へ開いた開口部が特徴的。外界と一体化し内外が密接な関係をつくる特有の空間をつくりあげてきた。

その立役者は床までを一杯に開く大きな引戸の自在さだ。内外が一体化された空間の流通性は、外界の自然の巧まざる美しさを、惜しみなく内部の生活の場に流入させるものであり、一方では生活の内なる場を外部へと発展させるものであった。内なる生活に忍び寄り自然の気配は、その全てが私たちの生活の演出者だった。いやむしろ共演者だったというべきかもしれない。

夜のうちに積もった翌朝の無響の静寂、盛夏の昼寝に畳を這うように肌を撫でる涼風の触感。扉や窓を叩く木枯らしの不協和音。そのような溢れるばかりの自然の営みとの共演の中に私は育った。

しかし今や都市化の波は、かような環境を閉鎖的にしてしまっている。建物周辺の余地は増々狭隘(きょうあい)になり、自然の舞台はいつしか身辺から遠ざかってしまった。急速な人口増加による都市化と共に、現代の人々が目先の利便性に眼が眩む余りに、極度の環境悪化を自らつくりだしていることに気づかねばならない。なぜに、自然の力を受けようとしなくなったのか、これほど迄に外界を閉ざしてしまうのか。

再び「窓」に話を向ければ、昨今の窓という窓のほとんどがエアタイトのサッシ。内外の流通を絶つものだ。たとえ窓を開けようとしても、豊かな自然の息吹きは流入しない。夏期などは、各戸に装備のエアコンが放出する冷

却熱が外気温を高め熱帯化を促進させている。

過密化の只中でも、もっと自然の力と手を結んで生活環境への工夫はいくらでもある。それには、自然を食い潰しながら獲得した、自己中心的な利便性を見直し、自然と共に生きる人間本来の生活を速やかに取り戻さねばならない。

窓はいつのまに採光の道具立てに成り下がってしまった。とはいえ、今の自然そのものも、既に再生不能な破壊の只中にあることを思えば、私たちは実に深刻な地球環境の中に立たされている。

地球温暖化防止の意識も驚く程に国際レベルは低い。思えば遅きに過ぎるともいえようが、とにかく可及的速やかに、且つ実効的に地球規模での環境保全に取り組みねば、次世代に向けた私たちの責任は果たせないことになる。

いつのまにか身につけてしまった贅沢さを脱ぎすてることこそが、今私たちに出来ることであり、世界を変える唯一の方策であるといえよう。

そして最後に示唆に富む事例を紹介しよう。在る夏の日、久し振りに設計でも縁のある喫茶店を訪ねた時である。庭に向けた大きな開口部が酷暑の夏とはいえ、一杯に開かれているのではないか。時あたかも鳴ききるひぐらしの音が店内に響き渡る。蝉の声こそがこの店の唯一無二のおもてなしなのだ。

そっと庭をのぞくと見えない様に蚊取り線香が置いてある。その店主の見事な程に優しい感性に窓の意味を再確認させられたのであった。





まちなみ ウォッチング



金沢まち歩き 池森 梢



今年は始めて県外で泊りの「冬のセミナー」、石川県輪島市・金沢市での「まちなみウォッチング」を兼ねて行いました。

■金沢市民芸術村と「谷口吉郎・谷口吉生の建築」展

金沢市民芸術村は、旧大和紡績倉庫群を芸術文化活動を行う場として平成8年に再生しました。とにかく運営がすがらしい！365日24時間利用可能、しかも格安で借りることができます。文化に対する意気込みを感じ、羨ましくも思

ました。

■鈴木大拙館と金沢21世紀美術館

「ジャパン・アーキテクト1945-2010」展、「3.11以後の建築」展

1950年代の建築が好きだと再確認することとなりました。建築展を見るのは久しぶりで、時系列でみる建築は形態の変遷を早回しで見ることができ、自分が何をもってときめきを感じるかを再認識できたことは、次の建築活動への力となりました。

『冬のセミナー』は聞く、見る、話す、全体を通して、パワーを頂いた時間となりました。

能登半島 輪島黒島地区まち歩き 野口 大介



2014年12月6日 一泊二日でJIA長野県クラブ初の試みで冬のセミナーを県外へ飛び出し、初日は能登半島輪島市黒島地区を訪れた。天候は生憎の雪で1時間ほどの遅れで到着した。金沢工大の谷先生に有るな廻船問屋であった角海家住宅でレクチャーを受け、その後、先生と学生さんの案内によりまちなみウォッチングを

行った。黒島地区は今でこそひっそりとした海辺の集落であるが、江戸時代から明治時代前期にかけては北前船の廻船業で賑わう船問屋の村であった。2007年3月に起きた能登半島沖地震で被災し壊滅的な被害を受けたが、復興を期に重要伝統的建造物群に選定され、最盛期のまちなみが伝統的な工法で復元が行われている。建築は切妻屋根平入が基本であり、下見板張りの板壁に屋根には釉薬を塗った光沢のある

黒瓦が乗っている。表には格子戸が設けられ、ウダツ壁が付いているものもある。下見板張りの外壁はまちなみに統一感をもたらしているが、厳しい気候から土蔵を守ること。そして下見板張り土蔵の間には外部に出なくても母屋と行き来出来る空間をつくり回廊の様になっている。また母屋には中庭を(ミツボガコイ)設け居住空間に光と風をやさしく導いている。独特な空間構成と地場の木材アテを使った建築は、冬季の日本海の潮風吹きつけるこの地だからこそ育まれてきたバナキュラーな建築である。素晴らしい集落であるが、人口の減少はここでも例外ではなく継続が危ぶまれる。

今回の冬のセミナーは山口代表の発案でとても有意義な時間を過ごす事が出来ました。

また次の期会があれば参加させて頂きたいと思います。

JIA大会2014岡山 倉橋英太郎

再認識したJIA大会の良さと、まちづくり



JIA建築家大会2014岡山は、秋晴れのもと倉敷・岡山にて2014年9月25日～27日に開催された。

私は25日の「倉敷の町並み紹介、町歩き」檜村徹氏か、シンポジウム「良質な建築・まちづくりのアドバイス機構」か、どちらかに出席したかったが残念ながら両方とも所用で出席出来なかった。しかしながら倉敷にてレセプションパーティーに出席し倉敷市長にお会いしたり、倉敷の夜を久しぶりの仲間達との楽しい懇親会、それと翌朝の美観地区、アイビススクエアの散歩は心の充実感を味わった。JIA全国大会に出席しての一番楽しみは夜の懇親会と開催地の地場力を知ることでしょうか？

26日のシンポジウム「エピソードを通して偉大な建築家達の教えを学ぶ」は前川国男設計岡山県天神山文化プラザにてした。師匠一前川国男、菊竹清訓、岡田新一の思い出と教訓話。基調講演：「建築の再コスモス化は可能か」オギュスタン・ベルク氏—コスモスとは「禪」「美」「真実」を絶え間なく結びつける包括的な秩序であるとか「人間は場所的存在である」

など頭のクイズのような難題な基調講演であった。公演後は意外とすっきりと晴れやかになり、夜のレセプションパーティーに参加でき各地の地域会の皆様とのさらに懇親を深めさせていただいた2日間でした。

私は今、松本にて片倉産業遺産群の保存・活用について、[未来の子どものために、魅力ある松本にする会—今井五介翁の遺業・遺産に学びながら—]を多くの皆様と立ち上げ、2万人弱の署名をいただき、片倉工業、イオンモールさんに片倉産業遺産群の保存・活用即ち「利活用」を推進し、遺産をできるだけ多く残ように請願中で、さらに署名を集めています。遺産群の利活用運動は、兎に角一日でも早く個人的でなく、多くの皆様、地域住民と一緒に行動を起こすことの大切さをアイビススクエアを訪問したりして、この倉敷・岡山大会で再認識できたのは嬉しかった。

今回は金沢で全国大会、時間があれば事務所研修旅行と一緒にして多くのJIAの皆様と懇親を深めたいものです。

皆さん次回は是非JIA金沢大会にいきましょう!!!



第9回

ものづくりの楽しさを伝える雑学講座

林建築設計室 林 隆氏

上田情報ビジネス専門学校
建築学科 インテリア住環境コース



2年 小平 雪乃

これまでの設計課題では、今まで自分の見たことや聞いたことから設計をしていて、こうあるべきだという固定概念が常に頭にありました。ですから、既成概念を解きほぐす、自由な状態から設計を始める、という言葉がとても印象に残りました。

今回の講座では、林先生の、建築や施主に対する考えや思いやりがとても伝わってきました。自分の納得のいくまで考え抜いているからこそ、いい建物ができるのだと改めて感じました。

敷地を見に行く、自分がお施主様だったら…ということなど、設計にとって大切なことをたくさん教えて頂きました。

今後は、本格的に卒業設計に取り組み始めます。

今回学んだこと、感じたことを忘れずに、自分の考えていることを表現したいです。

楽しい講座をありがとうございました。



1年 那須 昂太

今回は貴重なお時間をいただきありがとうございました。

普段はなかなかお会いすることが出来ない建築家のお話を聞けるときとても楽しみでした。講演では五つの家を見せてもらいましたが、どれもお施主様のことが考えられてとても素晴らしいと思いました。

初めの家は「独立性」と「関係性」の両立はどのような形で表現されるのかと胸が高鳴りました。実際のプランを見て、子供と奥様と旦那様でそれぞれの空間が確保されつつ、お互いの存在がわかるような素敵な家に感激しました。私もそんな家族のつながりを感じられるような家を設計できるようになりたいと思いました。その他にも様々な建物を見せてもらいましたが、その中でも黒い筒の家がとても印象的でした。外から見ると不思議な感じがして引き寄せられそうでした。

後半の製図の時間では適切なアドバイスをいただき、最後には設計に大切なことを教えて下さってとても充実した時間で、さらにたくさんの事を教えてほしいと思う3時間でした。本日は本当にありがとうございました。

信州建築設計展

岸本 貴志



信州大学寺内研究室主催の建築設計展、最終日に参加してきました。学生による設計製図の成果発表が中心の催しですが、大学の研究室から発信する建築ということに関連して建築家坂本一成氏による講演と日本工業大学小川次郎氏、宇都宮大学大学院安森亮雄氏による事例発表がありました。参加に際しては、以前興味深く読んだ「現代住宅研究」に坂本一成氏のケーススタディが取り

上げられていたのを思い出し読み返しながらご本人のお話も楽しみに参加させていただきました。会場ではまず、展示された製図や模型を見てその真剣な取り組みに好感を覚え、ソーシャルな視点と実現可能性について考えさせられる具体的提案にも感心させられました。さらに学生と先生のやりとりの中に研究室のユニークを感じ、蔵春館という会場のチョイスと併せて、率直に「テララボ良いな」と思いました。

あらためて、創造(想像?)する建築設計者(学生も大人も)に関わることはとても楽しいことだと感じる良い機会でした。

伊那谷住宅建築展 Vol.06 「記憶」

倉田 政人



伊那谷住宅建築展は今回で6回目となり、伊那図書館で開催されるイベントとして徐々に定着してきました。

今回の建築展ではテーマを「記憶」とし、パネル展に加え、メンバーが今までに暮らした家の記憶をたどりました。

間取りを時間軸ごとにマッピングした空間年表を個々に作成し、記憶を思い起こす展示を行いました。

私達が携わる創作活動は様々な情報・知識に加え、これまでの経験など多くの記憶を手掛かりに行われています。また日々の暮らしの中、蓄積した様々な記憶は次の創作に繋がっています。

今回のテーマ「記憶」は、住まい手にとってより豊かな空間づくりに繋がる、未来の創造源であることをお伝えできればと試みた建築展でした。

——— 今までの建築展 ———

- 第1回 「空間づくり・モノづくりの魅力」
- 第2回 「今見つめ直す生活スタイル」
- 第3回 「こち」
- 第4回 「気配」
- 第5回 「感謝」



協力会だより

「自遊」創造 空間のパートナー

株式会社 日創建材 代表取締役 有賀 良和



長野市でアルミサッシ一筋48年の会社です。住宅サッシ・ビル建築・マンションなどの金属製建具(アルミサッシ、スチールドア、ステンレスタ)などの工事を、ゼネコン様や工務店様の下で行っております。確かな施工技術、きめ細かな対応、迅速確実なアフターサービスの励行により創業以来信頼と実績を積み重ねてまいりました。

住宅やビルの建具における「困ったな…」と思った時は迷わず日創建材へ。

小回りのきく営繕業務、お客様のご要望を直ちにお伺いすることで、ニーズに合った対応等が出来るよう心掛けております。

JIA長野県クラブ様が発展出来るよう、これからもご協力させていただきます。

長野県長野市青木島1-18-13 TEL:026-283-1414 FAX:026-286-4355 URL:http://www.nisso-kz.com

木と向かい合い 現在…そして未来へと

小林木材株式会社 代表取締役社長 小林 基英



長野県産材おもに唐松材の製材・乾燥・加工をおこない自社ブランドの構造材・内外装板の製造・販売を主として行っております。

建築家の皆さんに県産材の良さをもっと知って貰いたいと入会致しました。

長野県小県郡長和町和田4336-1 TEL:0268-88-2007 FAX:0268-88-2423

NEWS 祝 受賞・表彰

平成26年度松本市景観賞

建築物・工作物部門

長野三菱電機機器販売株式会社 本社社屋 児野 登/(株)アーキディアック
三角屋根の家 林 隆/林建築設計室

奨励賞

長野県弁護士会 松本在住会 弁護士会館 児野 登/(株)アーキディアック
中山邸 川上恵一/(有)かわかみ建築設計室

環境未来住宅コンペティションin東松島

地域賞

Pocket Farm House 畑でつながる住まいとコミュニティー
片倉隆幸/池上博章/柴崎小枝 片倉隆幸建築研究室

- ◆ 2014年度 第14回JIA環境建築賞・優秀賞
- ◆ 第一回吉田桂二賞・入賞
- ◆ 2014年度 OMソーラー建築デザイン賞・優秀賞

松下重雄/(有)みずぎ設計一級建築士事務所



あるしてくとVOL.2 発行されました

開催したイベント

12月6日(土)～7日(日)…冬のセミナー
まちなみウォッチングin輪島市
黒島地区+金沢

今後の行事予定

2月21日(土)…建築祭 文化講演会 講師:内藤 廣氏
長野県学生卒業設計展
2月22日(日)…建築祭 長野県学生卒業設計コンクール
2月28日(土)…くらしの空間セミナー 講師:藤森照信氏



編集人/吉田 満 発行人/山口康憲
発行所/JIA長野県クラブ
長野市南長野妻科426-1 長野県建築士会館内
TEL:026-232-3897 FAX:026-232-5303
URL <http://www4.ocn.ne.jp/~jia-naga/>
E-mail jia-naga@jeans.ocn.ne.jp

編集後記 11月22日、「長野県神城断層地震」が発生しました。長野地域会では小川村においては応急危険度判定・被災度2次調査、白馬村においては建築相談、被災度2次調査の支援活動を実施しました。携わられた方々は、大変お疲れ様でした。さて、12月には長野地域会では初めてと言う県外での冬のセミナーが行われました。初日の移動では、恒例とも言える雪に見舞われるとう事態となりましたが、2日間有意義な時間を過ごすことができました。 吉田 満

皆様からの投稿をお待ちしております。誌面へのご意見もお寄せ下さい。